

第4回かわまちラボ 検証結果のまとめ

□検証の目的(第3回かわまちラボ結果より)

検証の狙い①

河川空間のオープン化※に向けた
占用エリア(候補)の活動検証

※オープン化により、占用許可を受けた
事業者の営業活動が可能

検証の視点

事業性

Point①:集客に寄与する導入機能

Point②:利用快適性(空間)

Point③:地域との関わり

検証の狙い②

ラボメンバー協働による新たな魅力づくり
(パッケージプログラム案)の検証

検証の視点

かわとまちの一体利用
(一部事業性を含む)

Point①:協働による新たな活用プログラム

Point②:水上と河川敷内建物の一体利用

Point③:かわとまちの一体利用

検証① あらかわ号の運行

- ・ 船に乗ることで、**普段は見ることのない広域の風景を見ることが可能**
- ・ **観光ガイドや河川事務所の方から解説**してもらうことで、水門の歴史などについての学びが深まる



検証② 水上アクティビティの運用検証

- ・ **赤水門に川から近づいて迫力ある景色を体験**できるため、観光や史跡巡りの面で高い需要が見込める
- ・ 赤水門の上流は水の流がほとんど無いが、泥や苔で滑りやすいため、**乗り降りの際の安全対策**が必要



検証③ パルクールの実演

- ・ **指導者がいる中で体験**できると、子どもや高齢者でも安心感があり、参加がしやすい
- ・ 街中も含め、様々な**アーバンスポーツとの連携**が考えられる



検証④ amoa 3階の活用に関する意見交換

検証⑤ 今後の活動についての意見交換

⇒ 「グループワーク成果」を参照

検証⑥ 夜間の活用検証・水辺で乾杯

- ・ 河川敷は近隣と一定の距離があるため、ストリートピアノ等の**音を出す活動**が可能
- ・ 夜間でも安全に活動できるよう、また、赤水門のライトアップにも活用できる**照明設備**があるとよい



【A班】空間活用の考え方・アイデア

具体的なアイデアは吹き出しに記述

〈テーマ型拠点〉

- ・ (仮) アウトドアラボ
 - ー 備品レンタル
 - ー カフェ
 - ー スクール
 - ー ロッカー
 - ー サークル (活動)
- ・ ステーション
(ランニング、サイクル、トライアスロン)
- ・ ゲストハウス
- ・ コワーキング
- ・ カフェ、テーマ型カフェ (動物、絵本)
- ・ 道の駅 (スーパー)
- ・ バー、スタンド
- ・ 休憩空間
- ・ 学生食堂
- ・ 駄菓子屋

〈河川敷の利活用促進サービス〉

- ・ 貸出 (遊具等、テントサウナ)

〈プログラム・スクール〉

- ・ 体験学習プログラム (企業利用)
- ・ 市民提案の企画スペース
- ・ アフタースクール (子どもたちの放課後の居場所)、アクティビティスクール

- ・ 映画の上映会、パブリックビューイング
- ・ サウナ
- ・ ビアガーデン
- ・ 養蜂
- ・ クラフトビールづくり
- ・ 飲食店の一時出店
- ・ 河川のライトアップに合わせた活用イベント (BBQ等)
- ・ ヨガ・ジム・ピラティス

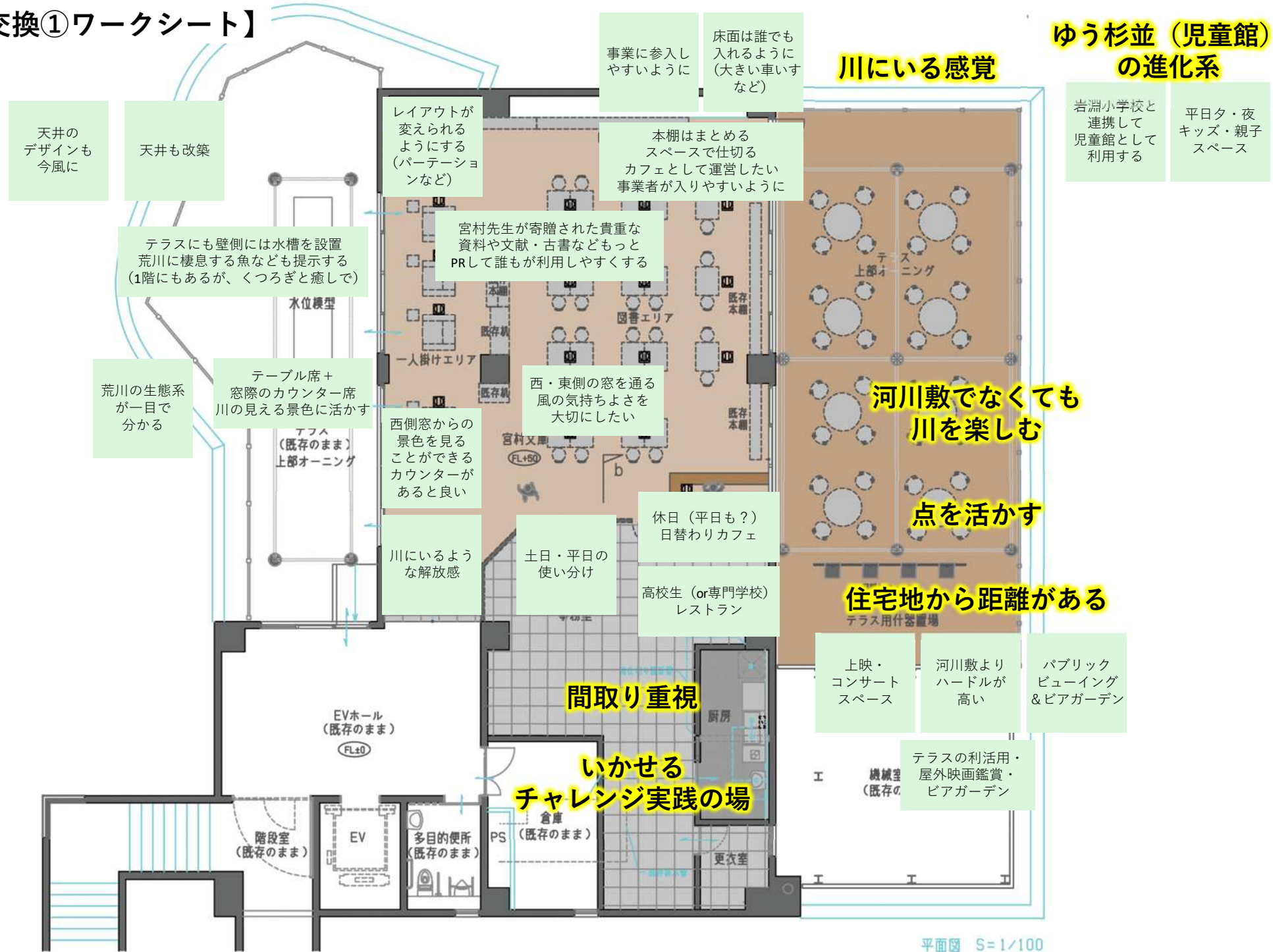


テラスの活用イメージ



第4回かわまちラボ グループワーク成果①荒川知水資料館 (amoa) 3階の空間活用

【A班 意見交換①ワークシート】



【B班】空間活用の考え方・アイデア

具体的なアイデアは吹き出しに記述

●施設の立地を生かす

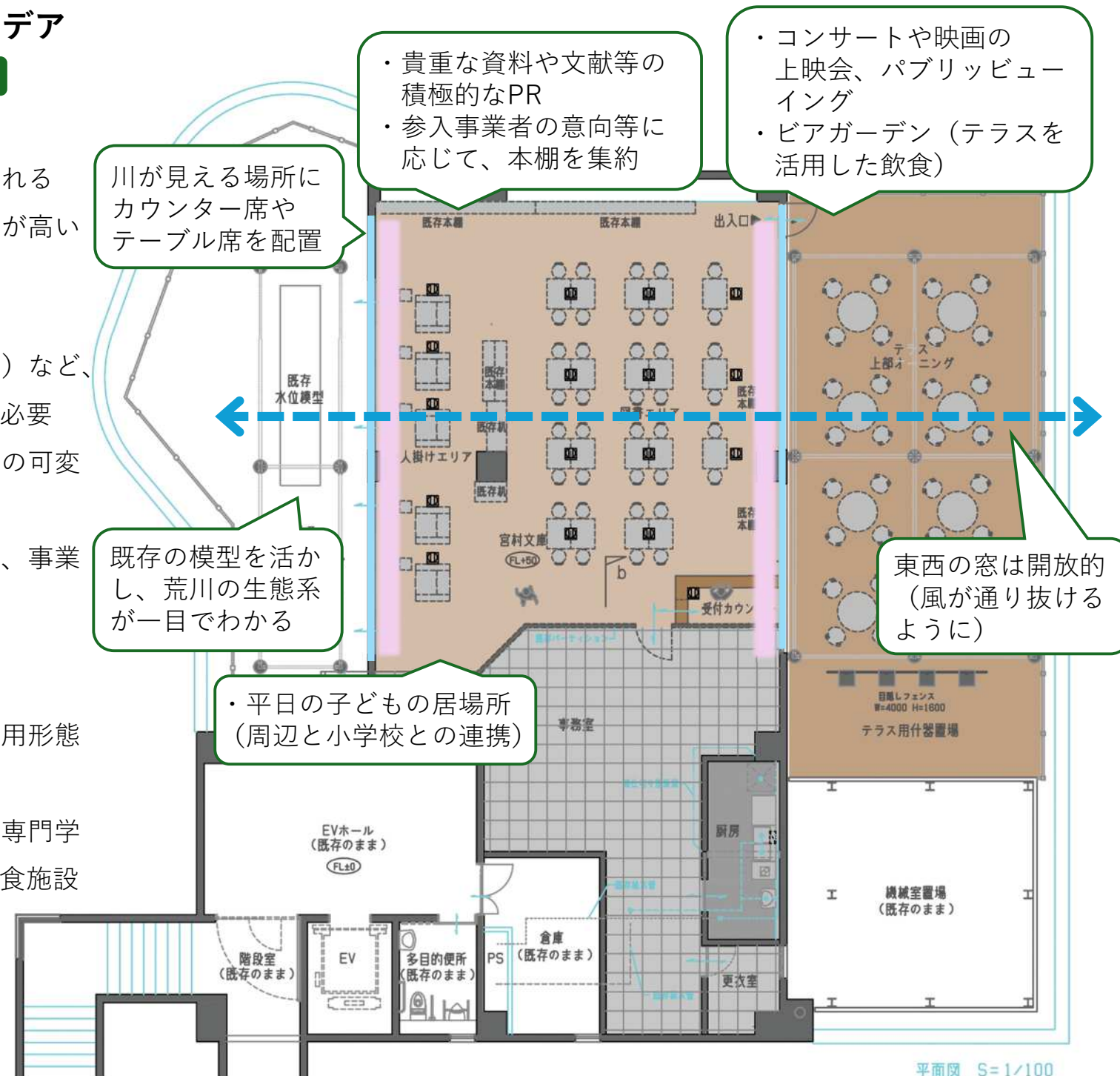
- ・施設にしながら、川にいる感覚を得られる
- ・住宅地から距離があり、活用の自由度が高い

●参入事業者への配慮

- ・バリアフリー（車椅子利用も可とする）など、事業実施のために最低限必要な修繕は必要
- ・柔軟な運営ができるよう、レイアウトの可変性や棚の書籍の取扱いに留意する
- ・内装が古いため、構造体を見せるなど、事業者が興味を示す設えが必要

●運営方針

- ・平日と土日で集客力が異なるため、運用形態を柔軟に使い分けてもよい
- ・事業者が変わったり、地域の高校生や専門学校生が運営（チャレンジの場合）する飲食施設



第4回かわまちラボ グループワーク成果①荒川知水資料館 (amoa) 3階の空間活用

【B班 意見交換①ワークシート】



第4回かわまちラボ グループワーク成果②検証を通じた広場（親水護岸）整備について

A案：デッキ活用・現況

デッキを残して活用する。上流側の親水護岸により水辺に近寄れる場を創出する。

親水護岸背面にたたずめるスペース・滞留できる場を創出する。

〈評価事項〉

- ・水辺の近くを安全に歩ける

〈懸念事項〉

- ・水辺の滞在場所が少ない

B案：デッキ撤去・管理用通路設置

デッキを撤去し、旧閘門への流れを阻害しない法線形状で親水護岸（高水敷）、管理用通路を整備する。

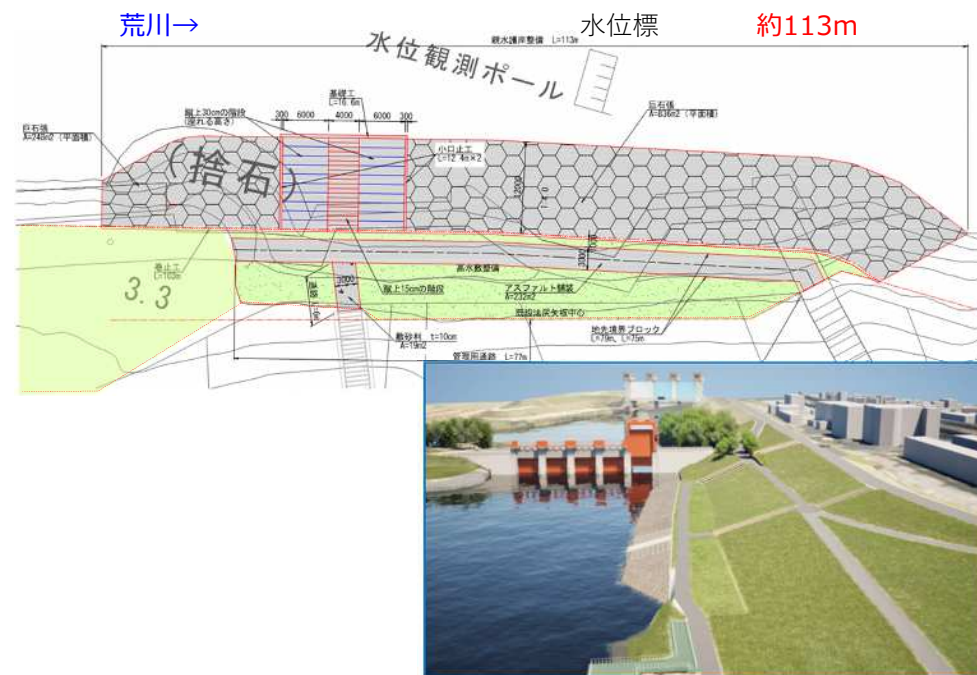
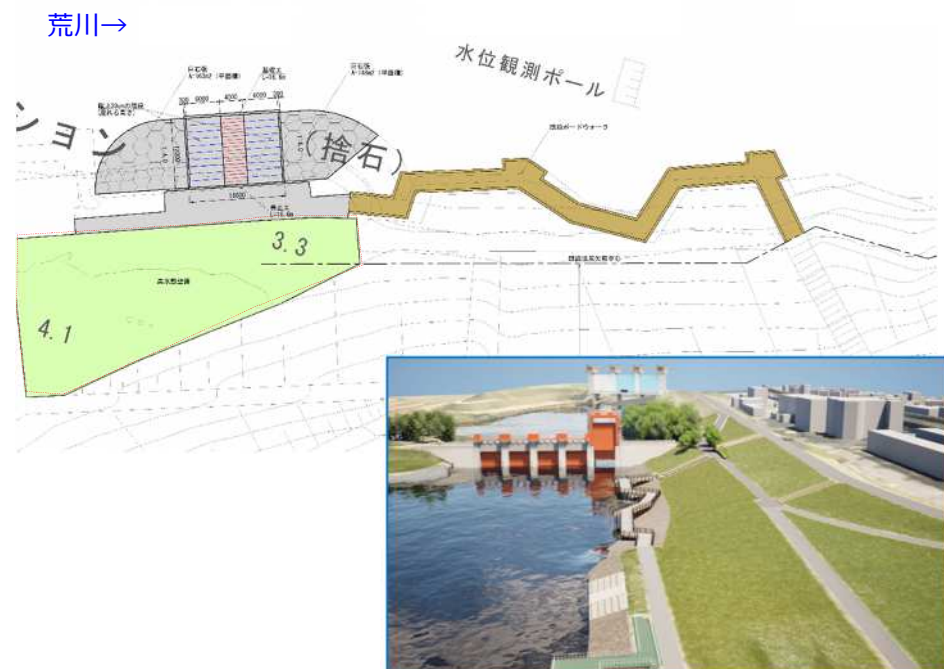
高水敷と管理用通路により、たたずめるスペース・滞留できる場、親水護岸により水辺に近寄れる場を創出する。

〈評価事項〉

- ・水辺の滞在場所が広い

〈懸念事項〉

- ・安全管理
- ・利用ルール
- ・維持管理コスト



その他意見やアイデア

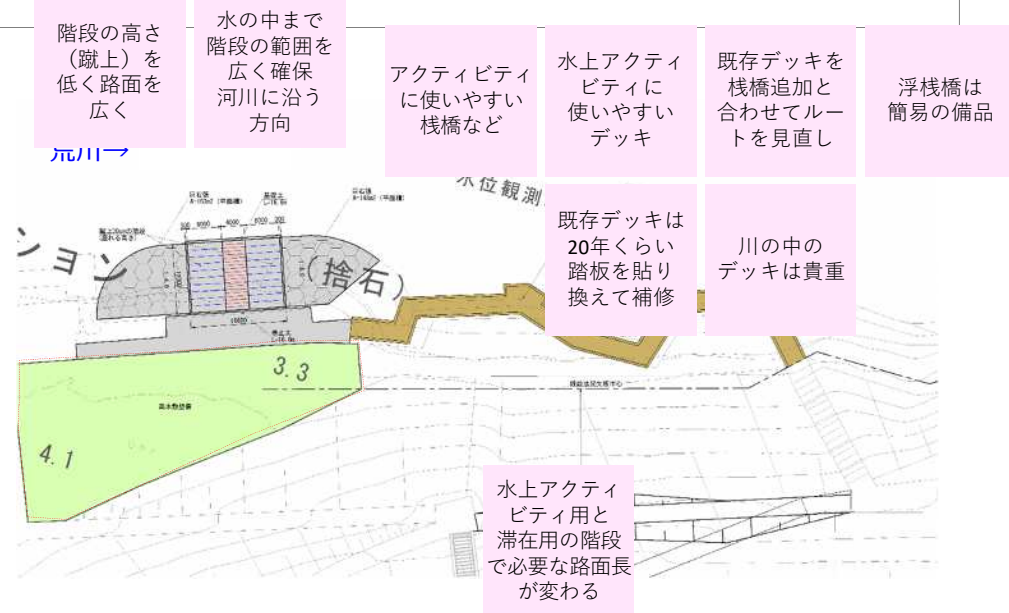
- ・階段が水中まで続いている、デッキや河川に沿った栈橋の方が水上アクティビティは利用しやすい
- ・利用用途（水上アクティビティ、休憩等）に応じて、求められる路面長が異なる
- ・干満があり、対象地周辺は、泥が溜まりやすい（環境改善は難しい）

第4回かわまちラボ 意見交換②ワークシート

A案：デッキ活用・現況

デッキを残して活用する。上流側の親水護岸により水辺に近寄れる場を創出する。

親水護岸背面にたたずめるスペース・滞留できる場を創出する。



B案：デッキ撤去・管理用通路設置

デッキを撤去し、旧閘門への流れを阻害しない法線形状で親水護岸（高水敷）、管理用通路を整備する。

高水敷と管理用通路により、たたずめるスペース・滞留できる場、親水護岸により水辺に近寄れる場を創出する。

